

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を掲示し、毎月発行する家族様にお送りする「幸楽便り」にも掲載している。職員全員で意義を理解し、実践につなげている。	幸楽が目指すホームの在り方として、4つの項目を理念としています。外国の職員の方が読めるようにフリガナをふって、毎月の職員会議で読み合わせを行い、理解に努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルスの流行で地域との交流が少なくなっているが、地域の環境美化運動等に参加している。傾聴ボランティアの方が、月2回訪問してくださる。地域の方が、新年会に出し物を披露してくださり交流をしている。	以前より、地域の住民等が減少していますが、ボランティアとの関わりや繋がりを大切にしています。傾聴ボランティア団体の訪問回数を増やして、紙芝居や歌、お話等で、利用者の昔の記憶を上手に引き出して気持ちを和ませています。利用者馴染みの地元芸人の歌謡ショーも大きな楽しみとなっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	中学生の体験学習としての訪問などを実践し、認知症の人の理解を深めていただくために、利用者様と触れあっていただき、一緒に交流していく中で感じてもらえるように努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	2カ月に1回の会議を開き、利用者様の現状報告をし、問題点があれば意見をいただいで可能な限り改善するように努めている。	会議は事業所の一角の大きなテーブルのある広いスペースで開催されます。町の職員はじめ消防団等、毎回多くの方が出席して、利用者の状況や医療支援、行事の様子等、具体的に報告がなされ、要望や意見交換ができています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に毎回参加していただき、実情やケアサービスの取り組みを報告している。相談ごとに対しては、助言をいただき協力関係を築いている。	介護保険の認定更新の機会等に、町の担当者へ利用者の暮らしぶりを伝えていきます。利用者や職員の現状を伝え、紹介依頼など事業所の実情を相談しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に研修を行い、身体拘束の対象となる具体的な行為等を理解している。ベッドの柵等による拘束を改善する目的で、転倒によるけがの防止として必要に応じてクッション性の高い床マットを設置している。	利用者の安全を確保し、抑圧感のない自由な暮らしの支援を目指しています。安全性と個人のプライバシーが守れるように、居室やトイレの開閉部を自作の鍵等で工夫したり、床に転倒時、衝撃の少ない特殊マットを設けて設置し、転倒時のケガの防止に努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止に関する指針を定め、職員に周知をしている。定期的に研修を行い、職員同士で常に指摘し合うように努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護の研修会を行い、制度について学び、知識として持っている。実践に結びつくケースは少ないが、必要に応じて関係者と話し合い活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に、契約書、重要事項説明書、利用料等についてわかりやすく説明をし、理解していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見、要望、苦情の窓口を設け、職員全員で、問題解決に向けて対処している。	入所をぎりぎりまで躊躇していた家族の思いや、入所してから揺れている気持ちを汲み取り、面会時や病院受診時に意見や要望を伺っています。管理者から、「家族アンケートを年1回実施したい」と伺いました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の職員会議を実施している。その場で出た意見等を参考に、改善すべき点などを速やかに実施している。日々の意見等は、管理者が主になって聞き入れ対処している。	職員と共につくる運営体制を大切にしています。業務改善シートに『職員より、駐車場までの灯り設置の要望』があり、すぐに取り入れたと記載がありました。	現在、1階と2階の利用者人数や介護内容など、状況や事情の違いがある中ですが、同じ幸楽の括りの中で、利用者や職員配置の工夫ができないかとの意見が伺えました。職員会議等で自由に意見交換や、提案が出されることを期待いたします。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者が、社長と常に連携を取り合い、施設の問題点、利用者様や職員の状況等について報告し、指示をいただいている。職員各自が仕事にやりがいを持てるように、環境づくり等に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	資格をもっていない人も募集しており、入社後取得希望に応じて援助している。法人内の研修は、研修計画を立てて実践している。法人外で行われる研修にも、参加できるよう支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	電話にて、職員の不足にどのような対策を行っているか等をお聞きし、情報共有を行っている。		

自己 外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者様、ご家族様、関係者からいただいた情報を参考にし、利用者様が話しやすい雰囲気作りをしている。利用者様の話を傾聴し、思いを尊重しながら、信頼し安心して過ごしていただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様の不安なことや、相談・要望等に耳を傾け、対応している。安心していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者様やご家族様の話に耳を傾け、要望等を把握し、必要なサービスを提案できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様一人ひとりの生活状況にあわせて、利用者様に、テーブル拭きや食後の食器洗い、食器拭き等をお手伝いしていただいている。一緒にできることを支援し、達成感や楽しみのある生活を送っていただけるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時やお電話で利用者様のご様子をお伝えしたり、月に一度、生活状況や幸楽だよりを郵送させていただき、利用者様のご様子をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者様のご家族、親戚の方の面会が増えている。ご家族と外出される利用者様もいる。馴染みの人やご友人と交流が持てるように、面会方法を考えながらの支援に努めている。	入所前に通っていた場所や、支え合っていた人間関係の継続に、柔軟な支援を心掛けています。希望に対応して自宅へ行ったり、馴染みの美容院へ予約をしたりしています。利用者の近所の方が手編みのひざ掛けを届けらるなど交流しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士の関係性を把握し対応している。ユニット間の交流をできるだけ行い、行事やレクリエーション等、一緒に楽しめるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所の際は、次の施設や病院と連携を取り、生活状況や身体状況の情報共有を行い、ご本人が安心して支援や治療が受けられるよう努めている。		

自己 外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の大切な事、やり続けてきた事、希望をお聞きしている。言葉で意思や思いを伝えることが難しい方には、筆談や文字を示していただくなどして対応している。	日々の関わりの中で声を掛け、把握に努めています。言葉や表情などからその意思を推し測ったり、それとなく確認するようにしています。意思疎通の困難な方には、家族等から情報を得るようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所される時に、ご本人、ご家族様、ケアマネージャー、関係者より、生活歴やなじみの暮らし方等をお聞きして把握に努めている。馴染みの話や得意な事を生かせるような生活環境を目指している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員会議等で利用者様一人ひとりの状態等を話し合い、全員で共有しながら支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月1回開催する職員会議にて、利用者様一人ひとりのモニタリングを行い、短期目標の評価をし、新たな課題等の検討を行っている。見直しが必要な時は、ご家族様や訪問看護と連絡を取り、介護計画の見直しを行っている。	利用者に個別な担当職員はつけずに、介護計画は全員で関わっています。月に1回の職員会議を行い、毎回新鮮な目で利用者の意向や、介護計画の実施状況の確認を行っています。本人と家族から介護計画への意見や要望を伺い、必要時はカンファレンスにて変更修正しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者様お一人おひとりのケア日誌をつけ、職員会議にて情報共有をしてモニタリングを行い、実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者様、ご家族様のニーズを確認し、できる限りの対応を行っている。医療機関へ付き添いをして、ご家族と一緒に受診に立ち会わせていただき、ケアにつなげている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ご家族の了承を得て、行政、自宅生活をされていた時の支援者、ご近所の方等と連携して支援できるように努めている。可能な限り地元の観光施設や公園を訪れ、楽しめるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族様と連絡を取り、可能な限り付き添いをしていただいている。受診困難な利用者様は協力医療機関木曽病院より、往診とオンライン診療を行っている。月に1回協力医療機関と会議を行っている。	現在、医師の往診ができない為、本人や家族の同意と納得を得て、利用者全員が協力医療機関をかかりつけ医としています。受診時には家族が付き添いをしています。付き添えない場合は職員が同行し、普段の様子や変化を伝えるようにしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に1度、木曽訪問看護ステーションの訪問がある。いつもと様子が違う時は相談し、指示をいただき対応している。訪問を依頼し、来ていただくこともある。受診が必要な時は、医療機関と連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療機関の患者サポートセンターへ情報提供を行っている。入院中は、患者サポートセンターよりご様子の報告がある。退院に向けて、医療機関やご家族様、訪問看護と関係者で、退院前カンファレンスを開催していただき、情報を共有し対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人様、ご家族様、訪問看護、医療機関と連携を密にして対応をしている。	開設から20名ほど、事業所での看取りケアを行ってきましたが、現在、協力医療機関の医師の体制状況により、看取りケアをできない状況になっています。事業所が対応出来る現状の医療ケアについて、本人や家族へ説明し、理解をいただいています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応マニュアルを作成し、職員で共有して、有事に実践できるように努力している。有事にBCP(事業継続計画)に沿って対応ができるように、訓練やシミュレーションを行っている。有事発生時には、保健所の助言を受け対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害対策マニュアルを基に、災害時における業務継続計画を作成し、全員で共有している。災害を想定した訓練と研修を年2回行っている。	利用者用のヘルメットや防災頭巾が完備され、2階の非常階段から車いすでも避難誘導がしやすい、連結の補助器具が用意されていました。備蓄品の準備もされています。	万が一の有事の折の、夜間や特に2階利用者の安全確保のため、消防団や地域住民等のさらなる協力体制の強化を希望します。

自己 外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	高齢者の尊厳保持についての研修会を行い、職員全員が学び、利用者様の尊厳を守りながら対応できるよう努めている。	事業所の理念の一番初めの項目に「個人の思いを尊重しそれぞれに適した自立を支援します」とあります。職員会議で常に振り返りを行っています。外国の職員も翻訳アプリで理解を深めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご自分の思いを伝えることができる利用者様にはお話を傾聴し、わかりやすい様に声掛けをして自己決定ができるように支援している。困難な利用者様には声掛けを行い、望まないご様子が見られた時には別の方法に変えるなどして対応し、自己決定していただけるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	常に利用者様が主役という気持ちを持ち、支援している。職員都合の支援にならないように留意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝は、可能な利用者様には、私服に着替えていただき、就寝前には、パジャマに着替えていただくよう声掛けを行い、一日の活動のメリハリがつくように支援している。利用者様が希望されない時には、利用者様の気持ちに沿った対応をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様のこれまでの食生活を把握し、良い雰囲気の中で、温かい食事を食べていただけるよう努めている。利用者様全員ではないが、職員と一緒に野菜の皮むきや味見、食べる前にテーブルを拭く、食器洗い、食器拭き、お膳拭き等を、職員と一緒にやっている。	リビングのすぐ横にキッチンがあり、調理をする音やにおいが身近に感じられます。利用者の生活の一部として家庭的な雰囲気を醸し出しています。職員は利用者の嗜好を考慮し、交代でメニュー作成や材料の手配、調理をし、玉ねぎの皮むき等利用者もできることを一緒にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	家庭料理を提供している。利用者様の状態に応じた形態で対応している。栄養を考え、肉と魚を交互に食べていただけるようにしている。時々、食べたい物アンケートを行い、希望に沿った食事をしていただけるよう取り組んでいる。食事量や水分量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、利用者様の状態に応じて口腔内ウェットティッシュを使用した支援を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	利用者様の個々の排泄パターンを把握し、声掛けができるように努めている。食事前やおやつ前、就寝前に声掛けを行い、自立に向けた支援をしている。	自尊心に配慮して身体機能に応じて手を差し伸べたり、歩行介助をして、トイレでの排泄を大切にしています。職員全体で共有するため、一人ひとり時間を追って排泄表に記録し、その利用者の排泄パターンを把握することで適切な時間にトイレ誘導を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	日々の日課の中で、テレビ体操などの体操を、職員と一緒にやっている。一日に必要なとされる水分を意識したり、食物繊維を多く取り入れた食事を心がけている。排泄があった時は記録し、しばらく排泄がない時は訪問看護に相談し、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	利用者様の希望をお聞きして対応し、決して強要することなく、時間をずらして再度お誘いしたり、次の日にお誘いしている。バイタル測定や体調確認を行い、実施している。入浴後には水分補給をしていただいている。	入浴時の羞恥心や恐怖心、負担感等を理解し、くつろいだ気分で入浴できるように配慮しています。現在、家族からの要望もあり、利用者の重度化に伴って浴槽を跨げない場合の入浴方法が、課題として上がっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者様一人ひとりの睡眠時間を尊重し、朝は声掛けを行うが、まだ寝ていたいと言われる時は、後で声掛けをしている。体調に合わせて、お昼寝をされる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者一人ひとりのお薬説明書を綴じるファイルを作り、職員が確認できるようにしている。誤薬が無いように留意し、確認をして提供している。利用者様の状態に応じて対応している。内服記録を記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者様が今まで行ってきたことや行っていたいことをお聞きし、役割をもって過ごしていただけるように支援をしている。色塗りやパズルをしたり、SNSや動画などで音楽番組や体操、映画を楽しむ機会を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	お花見や紅葉狩り、買い物等に行くなど、利用者様の希望をお聞きし、ご家族と連携して外出できるように努めている。	以前のように車で伊那方面等に遠出はできないものの、利用者の希望を聞き、近くの公園へ行ったり、家族の協力を得ながらショッピングモールに買い物に出かけています。	

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者様からご希望があれば、ご家族に相談し承諾を得てから、立て替えをして購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族様と事前にお話をさせていただき、都合の良い時間帯で対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり .	常に共有の空間を清潔に保ち、居心地の良い空間となるように努めている。	絵画や利用者の制作物、季節の装飾が廊下の壁に飾られています。1階には体操ができる広いスペース、2階にはくつろげる大きなソファがあります。ガラス戸に衝突しないように、職員考案の赤色の毛糸を張り付ける工夫がされ、安全性にも配慮されていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者様は、それぞれ好まれる居場所があり、好きな場所で過ごしていただけるようソファを設置するなど工夫している。好きな場所で過ごしていただけるように、そっと見守っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人やご家族と相談をさせていただき、できる限り使い慣れた物を持参していただいている。環境を整えて、安心して過ごしていただける様に努めている。	利用者にとって馴染みの物を自宅から運び入れて、部屋づくりをしています。紛失や転倒時の危険がないように配慮をして設えています。外窓内側の障子張りの引き戸が、和風で落ち着いています。全館床暖房で寒い日でも快適な温度になっていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者様にトイレが分かるように大きく表示をしたり、お部屋の入口にお名前と、一人ひとり違うイラストが書かれたプレートを貼って、対応している。		